

特集

外科医が知っておくべき！ 免疫チェックポイント 阻害薬

免疫チェックポイント阻害薬が、がん診療の日常診療として使われるようになってから、まだ日が浅い。しかしながら、最近では、次々に新たな薬剤、抗CTLA-4抗体、抗PD-L1抗体なども登場し、その適応も着実に広がっている。これまでは、標準治療が終了した症例が主に対象になっていたが、術後補助療法のみならず、一次治療としても保険適用になってきている。その状況下、外科医自身が処方する場面も多くなっているものと思われる。ただ、従来の化学療法薬とは異なる有害事象、副作用も発生してしまい、その対応も従来の薬剤とは異なる治療が求められている。日進月歩の領域であり、今後も新たな展開をみせることも間違いない。外科医は catch up していくこと自体に難渋してしまう可能性もある。

本特集は、外科臨床現場で適切・的確に免疫チェックポイント阻害薬を使っていただくために企画された。時として重篤な有害事象も発生してしまうが、恩恵を受ける患者さんが多数いることも間違いない。がん診療における免疫チェックポイント阻害薬の意義・役割を十二分に理解していただくための一助となれば幸いである。